

光学天文連絡会

GROUP OF OPTICAL AND INFRARED ASTRONOMERS (GOPIRA)

会 報

No. 48

1988-3-28

光学天文連絡会事務局(東京天文台岡山天体物理観測所)

去る1月12日(火)午前9時半から3時間にわたり、関係者が集って出席いただき
(ユーザーズ・コミティ)ミーティングを開催いたしました。主眼は岡山188cm望遠鏡
の制御プログラムの編成でしたが、岡山191cmおよび91cm望遠鏡の現況報告(西村)
につき、関連の堂平91cm(北村)、木曾91cm(石田)の現況報告がありました。3

目次

- I. ユーザーズ・コミティ ミーティング (報告) 1
- II. 第47会運営委員会報告 1
- III. 東京天文台改組準備調査委員会(第8回メモ) 2
- IV. 光天連シンポジウム報告 5
- V. 運営委員会懇談会メモ 5
- VI. 天文学研究連絡委員会報告 6
- VII. 大学における天文学研究教育の充実について 7
- VIII. 光天連・宇電懇運営委員合同懇談会 8
- IX. 第48回運営委員会報告 9
- X. 岡山プログラム編成問題について 10
- X I. 国立天文台(仮称)発足準備委員会メモ 11
- X II. 東京天文台 望遠鏡WG 会合記録(9) 12
- X III. 1988年度運営委員選挙結果報告 13
- X VI. お知らせ 13
- X VII. J N L T国際シンポジウムについて 14

日時: 1988年1月12日 13時30分-16時
場所: 東大天文学教室
出席者: 小藤、家、西村、田中、安藤、渡古、岡村、野原、磯部、平田、田村、佐々木、小倉、
清水、渡辺

午前のユーザーズ・コミティ・ミーティングに引き続き、次の議題で運営委員会が
開かれた。

- 1. 結報告
 - 1) 東京天文台改組関係
 - 2) J N L Tシンポジウム(11. 29-12. 2 山上会議所)
 - 3) 光天連英文パンフレット(8月のIAU G. A. (ボルネオ)に間に合わせる)
- 2. 議事
 - 1) 次期運営委員選挙日程
 - 2) 改組後の共同利用体制
 - 3) 光天連シンポジウムの準備
 - 4) 光天連次期体制
 - 5) 合同運営委員会その他

I. ユーザーズ・コミッティ ミーティング (報告)

去る1月12日(火)午前9時半から3時間にわたり、関係者26名にご出席いただきUC(ユーザーズ・コミッティ)ミーティングを開催いたしました。主題は岡山188cm望遠鏡の観測プログラムの編成方法でしたが、岡山188cmおよび91cm望遠鏡の現況報告(西村)に続き、関連の堂平91cm(近藤)、木曾シュミット(石田)の現況報告がありました。3月の望遠鏡改修のためもあり岡山188cmが非常に混雑していること、また堂平91cmは国立研移行後共同利用に供される予定であること、木曾は東大に残るが実質的な共同利用を継続して行くことが報告されました。

さらに、UH2.2m望遠鏡、JNL T(小平)、東京天文台の改組(古在)について報告がありました。UH2.2mでは一部(~10%)のテレスコープタイムを日本人研究者に開放する用意があること、JNL Tは国際共同利用の面も考慮して運用されるであろうことが伝えられました。東京天文台は7月から国立大学共同利用研として発足し、岡山・堂平等の観測所も共同利用に供されます。188cmのプログラムは当然これらの状況をふまえて編成されることとなります。

海外のレフェリー制の調査(谷口)、若手研究者からの提案(市川)は議論を呼びました。特にプログラム編成にレフェリー制を導入するかどうかについては参加者の中で意見が割れ、議論は光天連シンポに持ち越されました。

1月27、28日の光天連シンポではより広い範囲の問題が取り上げられましたが、プログラム編成に関する議論はやはりレフェリー制導入の是非が大きな議論を呼び、統一した見解が見いだせず終了しました。したがって、目下観測プログラム編成について光天連から東京天文台に何らの申し入れもできない状況にあります。今年の7-12月期のプログラムには間に合わないとしても、光天連としての一致点を探すべく、今後UCを軸として更に議論を重ねて行くことになりました。

以上

(文責:前原英夫)

II. 第47回運営委員会報告

日時:1988年1月12日 13時30分-16時

場所:東大天文学教室

出席者:小暮、家、西村、田中、安藤、兼古、岡村、舞原、磯部、平田、田村、佐々木、小倉、清水、渡辺

午前のユーザーズ・コミッティ・ミーティングに引き続き、次の議題で運営委員会が開かれた。

1. 諸報告

- 1) 東京天文台改組関係
- 2) JNL Tシンポジウム(11.29-12.2 山上会議所)
- 3) 光天連英文パンフレット(8月のIAU G. A. (ボルチモア)に間に合わせる)

2. 議事

- 1) 次期運営委員選挙日程
- 2) 改組後の共同利用体制
- 3) 光天連シンポジウムの準備
- 4) 光天連次期体制
- 5) 合同運営委員会その他

III. **東京天文台改組準備調査委員会 (第8回) メモ**

1988年1月16日、上記会合が東京で開かれた。

1. **報告**

古在会長より国立天文台(仮称)創設についての予算内示について別項「資料1」のような報告があった。JNLT関係については大型観測装置調査費のなかに含まれている。

2. **議事**

(1) **国立天文台人事のスケジュールについて**

7月1日発足に向けての人事の進め方についてスケジュールの説明がありそれについて議論があった。

(2) **仮運営協議員の選出について**

台外委員については定常時は別として初回は天文研連が中心になって選任を行なうことになっているので、研連に推薦する候補者について意見交換があった。

(3) **各種委員会の構成・人事の進め方について**

改組準備調査室で準備した「各種委員会の構成・選出法について」(「資料2」)が配布されそれについて議論があった。その内容については今後仮運営協議員会などで検討が続けられる。

(夫英原前: 資文)

本改組準備調査委員会は今回で任務を終了した。

吉野委員委員選出メモ 第 2

1988年1月16日 (小暮記): 朝日

室橋 天文大東: 西原

倉小、木本、林田、田平、池野、原典、林岡、古井、藤安、中田、林西、案、暮小: 香取出、飯島、水新

本委員委員選出メモの、吉野委員委員選出メモ

吉野前 1

顧問委員委員選出メモ

(西原会士山 S.S.I-8S.II) A-EMM (T.J.N.T)

(島津前合開の(テチマハ) A.G. U.A.I. 8) イエノノハ文英天光 (8

専務 2

朝日委員委員選出メモ

朝日委員委員選出メモ

朝日委員委員選出メモ

朝日委員委員選出メモ

朝日委員委員選出メモ

IV. 光天連シンポジウム 1988

東京理科大学

昭和63年1月26、27の両日、東京大学総合図書館会議室において光天連シンポジウムが62名の出席のもとに開かれた。世話人は田中弥、岡村定雄、定金三三の会長(前)は小暮委員に代って舞原氏の基調報告、小平、山下の報告、舞原、田中の報告、大学の望遠鏡計画についての報告がなされ、27日午前は休会、28日午前はシンポジウムの閉会(舞原、田中、水新)が行われた。27日午前は休会、28日午前はシンポジウムの閉会(舞原、田中、水新)が行われた。

[資料 1]

昭和63年度新規事項 (62.12.28内示)

1. **国立天文台(仮称)創設** 昭和63年7月1日設置

2. **組織** 256名

台長	指定職 1
企画調整主幹	教授 1 (併任)
研究系	6研究系 22部門、2客員部門 (①、①)
光学赤外線天文学	5部門 教授 5、助教授 5、助手 12
太陽物理学	2部門 教授 2、助教授 2、助手 4
位置天文・天体力学	3部門 教授 3、助教授 7、助手 16

理論天文学	2部門 教授 2、助教授 2、助手 4
①	①

電波天文学	5部門 教授 5、助教授 5、助手 10
①	①

地球回転	5部門 教授 5、助教授 8、助手 8
附属施設	8施設 助教授 13、助手 27

計	教授 22、助教授 42、助手 81
---	--------------------

技術部	部長 1 (併任) 課長 2 補佐 2 10係 43
-----	----------------------------

管理	部長 1 課長 3 補佐 4 14係 33
----	-----------------------

附属施設	22
------	----

3. **経費**

臨時事業費 超低雑音素子による二次元電波センサーの開発研究(5-1)
大型観測装置調査費

①は客員分(外数)

①は外国人客員分(外数)

(併任)は(外数)

各種委員会の構成・選出法について

1987.12.15
改組準備調査室

- (i) 評議員会
 - ・20名
 - 国立大学の学長その他の学識経験者
 - 1年に2回(任期2年)
- (ii) 運営協議員会
 - 21名: 所内11名 教授会で選出
(各研究系より最低1人プラス企画調整主幹・研究交流主幹・技術部長
プラス2名)
 - 所外10名 天文研連・測地研連等と相談する。
定常時の選出法は別途検討する。
 - 国立天文台(仮称)の職員及び同一の研究に従事する国立大学の教員その他の者
 - 2ヶ月に1回(任期2年)
- (iii) 専門委員会
 - (a) 光学赤外・太陽研究専門委員会
 - (b) 位置力学・地球回転研究専門委員会
 - (c) 電波天文研究専門委員会
 - (d) 理論・共通研究専門委員会
 - 各研究専門委員会は 所内 5名(委員長): 台長より提案→教授会
所外 3~5名 : (これから検討する)
 - 1年3回
 - (e) 総合計画専門委員会
 - (f) 研究交流専門委員会
 - 各々 所内 数名 : 台長より提案→教授会
所外 数名 : (これから検討する)
 - 1年3回
- (iv) 教授会議
 - 台長が招集し、教授・助教授で構成する。
 - 2ヶ月に1回程度
 - 台長より提案された、企画調整主幹・研究交流主幹・技術部長の承認。
 - 関連研究専門委員会に相談して台長より提案された、各研究系主幹・観測所所長の承認、専門委の承認。
 - 運協メンバー・幹事会議委員・人事委員会の選出
 - 幹事会議のチェックなど
(主幹・技術部長の任期は2年とする。)
- (v) 幹事会議

研究所運営のキャビネット的なもの

 - 台長、企画調整主幹、研究交流主幹、各研究系主幹6、技術部長、教授会より選出された4、(任期2年半交代) 必要な場合、センター長・施設長等より若干名を加える、及び管理部長。
 - 2ヶ月
- (vi) 人事委員会(分野の案を作る)
 - 企画調整主幹及び教授会メンバーより選出された10名、必要な場合、さらに台長が若干名を補充する。
 - 任期2年(半数交代)の常置委員会。
- (vii) 台長選出について
 - 運営協議員会で討論・評議員会へ推薦→評議員会で決定
 - 64才以下の国立天文台(仮称)及び国公立大学教授・教授経験者、各種研究機関の同等の職種の人から選出
 - 任期4年、再任の時は2年、上限は設けない。

IV. 光天連シンポジウム報告

昭和63年1月26、27の両日、東京大学総合図書館会議室において光天連シンポジウムが62名の出席のもとに開かれた。世話人は田中濟、岡村定矩、定金晃三の3氏。26日の午前には小暮委員長に代って舞原氏の基調報告、小平、山下両氏によるJNL T計画に関する報告、午後にはサイト・テスト(中桐氏)、観測装置(安藤氏、舞原氏)に関する報告と各研究所・大学の望遠鏡計画についての報告がなされ、最後に東京天文台の新組織への移行について古在台長より説明があり質疑応答が行われた。27日午前は体制問題ワーキンググループの報告(関氏)、国内観測所(岡山、木曾、堂平)の運用と現状について山下、石田、近藤の各氏より、プログラム問題の経過について前原氏より報告が行われ、続いて市川(伸)氏よりプログラム編成についての提案と寿岳氏よりいわゆる"プログラムレフェリー制"についての批判が行われた。午後から総合討論に入ったが主な議題は国立天文台(仮称)の各種委員会委員の選出問題と岡山天体物理観測所188cm望遠鏡のプログラム編成問題であった。前者については体制WGの報告が主として専門委員会の選出法(会員による投票結果を運営委員会で調整)にあたったのに対し、運営協議員の選出、委員の資格問題についても議論があった。後者については時間の大部分を費やして活発な議論が行われ、さまざまな考え及びその問題についての理解が深まった。これをどうまとめるかは運営委員会で判断し、総会にはかることになった。内容の詳細については近く発行されるシンポジウム集録を参照されたい。

(事務局)

V. 運営委員会懇談会メモ

日時: 1988年1月27日(水) 15:45~17:00
 場所: 東京大学総合図書館会議室
 出席者: 運営委員(安藤、家、磯部、岡村、兼古、小平、佐々木、田中、西村)、清水事務局長、定金シンポジウム世話人、関体制WG世話人、前原ユーザーズ・コミティ世話人、他約10名

- 光天連シンポジウムに引続いて行われた。議題は①体制問題と②プログラム問題であった。
- ① 運営協議員と専門委員会委員の選出問題ではシンポジウムで関氏より報告のあった体制WGの案(会員による選挙結果に基づいて運営委員が調整する; くわしくはシンポジウム集録参照)を基本的には了承する。
 - ② シンポジウムでは活発な議論が行われ問題点ははっきりしてきたが具体的にどうすべきかは今後引続き議論する。

(文責: 田中)

VI. 天文学研究連絡委員会（第13期・第7回）報告

昭和63年1月28日13時-17時 天文学
学術会議第3部会議室

1. IAU関係

- (1) IAUに日本から38名の新メンバーを推薦することになった。
- (2) 若い人の総会参加補助の申し込みは3件のみで、全て推薦する。
- (3) 日本のIAU総会への代表として杉本氏、補助に小平氏を選出した。(古在氏はIAU会長候補なので避けた。)

2. 国立天文台関係

- (1) 内示について報告があった。：国立天文台(仮称：7月1日発足)256人、東京大学理学部施設21人。
- (2) 文部省の協力者会議は2月にしめくりにする。
- (3) 新組織の人事(構想)を決める会議が3~4月に開かれよう。
- (4) それに先だって仮運営協議会を発足させる必要があり、人選は進めつつある。

3. 将来計画関係

- (1) VERAの推進について研連で認めることを適切な文章で議事録に残す。
- (2) 「大学における天文学研究・教育の充実について」という標題の文章をつくることにし、文案を練ることになった。
- (3) JNL TのOSDA案が配布され、検討を依頼された。UHに15%の配分は妥当というコメントがあった。

4. 研連委員について

- (1) 特別なことがなければ今回で第13期は終わる。7月中に研連継続が決まると新委員を選出する。
- (2) 新制度では3期9年という上限があるので、国際天文学連合委員などの特別枠をうまく配慮するのが良いが、選出に当たって別枠をとるかどうか検討は必要であろう。

5. その他

- (1) NRO共同利用の状況報告。
- (2) 岡山188cmの利用状況・過密対策についての光天連、岡山ユーザーズミーティングでの検討状況報告。

以上

(小平・寿岳；磯部中退、小暮欠席)

(中田：責文)

VII. 大学における天文学研究教育の充実について

VII. 大学における天文学研究教育の充実について

昭和63年1月28日

日本学術会議天文学研究連絡委員会

日本学術会議天文学研究連絡委員会は東京大学東京天文台と文部省緯度観測所が名古屋大学空電研究所の一部と共に新たに国立大学共同利用機関としての国立天文台(仮称)に移行するにあたり、我が国の天文学研究を一層推進するために、国立天文台(仮称)の整備と平行して大学における研究教育の整備充実を図ることが必要であると考える。

天文学は宇宙の極限的な観測を必要とし、そのために大型観測装置を建設運用するための共同利用機関の整備が不可欠である。国立天文台(仮称)はそれを主要な目的とするものであり大型機器の整備と共に共同利用機関として全国の研究者に開かれた研究所であることが期待されている。しかしながら大型装置を有効に利用し、天文学全般の発展をはかるには大学における研究教育の充実が不可欠である。

大学の役割は共同利用機関の大型装置などを有効に利用しつつ、独自の萌芽的、独創的研究を推進し、将来を荷なう研究者の養成にあたることにある。そのためには適切な中小機器の配置、充実した研究教育の設備が基本的な要件である。また、それによって始めて国立天文台(仮称)との連携をはかることができる。現在、天文学の研究教育は主として各大学における理学部の天文学(宇宙物理学)教室と物理学教室の一部において行なわれているが、実験・観測の設備は日本の天文学が国際的に荷なうべき役割を考えると著しく劣悪な状態にあるといわざるを得ない。国立天文台(仮称)への移行にあたり大学における研究教育の体制ならびに施設の充実を望む声は大学のみならず、全国の関連研究者からも高いのである。

現在、上記の観点に立っていくつかの大学において天文学・宇宙物理学の研究・教育を充実するための計画が進展している。主なものを挙げると、

- 北海道大学理学部 大学院講座(宇宙物理学)設置計画
- 東北大学理学部 学部一講座(電波天文学)設置計画、国立天文台(仮称)等の国立研究所との間での客員講座の設置計画
- 東京大学理学部 木曾観測所を含む天文学教育研究施設の設置、サブミリ波望遠鏡建設計画、国立天文台(仮称)等の国立研究所との間での客員講座の設置計画
- 名古屋大学理学部 南天4m短ミリ波望遠鏡の設置計画、1.2m赤外線反射望遠鏡の設置計画、国立天文台(仮称)・宇宙研等の国立研究所との間での客員講座の設置計画
- 京都大学理学部 2.3m光学赤外線望遠鏡建設を含む理学部附属天文台の整備拡充計画、国立天文台(仮称)・宇宙研等の国立研究所との間での客員講座の設置計画

などがある。これらの計画はいずれも我が国の天文学発展に重要な意味を持つもので全国的な視点からも早期の実現が望まれるものである。

日本学術会議天文学研究連絡委員会は、このような状況のもとに、当該大学の研究者のみならず全国の関連研究者も要望する上記の諸計画を推進することが日本の天文学研究の発展のために極めて重要であると判断し、これらの計画の推進に関して関係諸方面の御理解が得られるよう希望するものである。

VII. 光天連・宇電懇運営委員合同懇談会

国立大学共同利用機関としての国立天文台(仮称)が昭和63年7月1日から発足するに伴いその運営について、特に、共同利用関係の各種委員会委員の選出法について、意見の交換を図るために上記の会合が2月26日東京天文台において開かれた。会には光天連、宇電懇の関係者の他理論懇から参加があり全部で約20名であった。司会は田原博人氏(宇都宮大)。

はじめに光天連から体制WGの関宗蔵氏(東北大)から光天連体制WGの会合および光天連シンポジウムでの議論の結果を中心に報告があった(本会報 ページ参照)。光天連での議論は主に研究系の専門委員会委員の選出法に重点があり、運営協議委員の選出については分野からの推薦という暫定的な案が紹介された。

ついで宇電懇の海部氏(東京天文台)から主として運営協議委員の選出法についての宇電懇運営委員会での議論が報告された。要旨は研究者による研究班(または研究グループ)を組織しそこで直接選挙を行なうというものである。

理論懇の高原氏(東京天文台)からは選挙よりは推薦制がよいという意見が述べられた。このあと会議は主として運営協議委員の選出法について議論が集中した。直接選挙の場合学会議会員や天文研連委員と併に日本天文学会に選挙を委嘱するという意見もあったが、それについては学会の体制の再編を要するという問題があり、また、理念的にも問題があるということで議論は進まなかった。多くの議論の後問題点が次のように煮詰まって来た。

- A. 一定の資格をもつ研究者のグループによる直接選挙
- B. 分野別の研究組織(光天連、宇電懇、--)からの推薦

研究者グループの組織や選挙法などに問題は残っているが、運営協議委員の選出についてはAの方向に議論が進んだ。一方、研究系の専門委員の選出についてはBの立場からの意見が多かった。その場合、分野として現行の研究組織を利用するか、Aで述べた研究グループを国立天文台の4研究系に分けてそのなかでそれぞれ選出を行なうか、という2つの方法がある。

以上の問題点をそれぞれの研究組織に持ってかえり、議論を詰めた上で、国立天文台発足前に再び懇談会を持つことになった(5月下旬ないし6月上旬)。

(小暮記)

IX. 第48回運営委員会報告

日時: 1988年3月10日

場所: 宇宙研・駒場45号館

出席者: 小暮、家、西村、兼古、平田、安藤、岡村、小平、磯部、田中、定金、清水

議題

1. 諸報告

1) 改組関係 文部省内に組織されていた協力者会議はその任を完了し、国立天文台(仮称)設置のための協力者会議として発足し3月18日に会合を開く。次回は5月半ば頃の予定。又仮運営協議会を3月12日に開き、台長、企画調査室主幹、各系の教授の候補者を選び4月初めまでに組織の骨格と主要人事を決めることになっている。

2) 東京天文台 台長の任期満了にともない選挙が行われ、平山淳氏が台長事務取扱に選出された。計算施設長事務取扱には西村史朗氏、堂平・岡山の施設長は山下泰正氏等各施設長の推薦が行われた。

3) JNLT技術関係 サイトテストは一応完了し、次年度は総括を行う。テストタワーが倒れた。エコゾンデを借りる交渉をしている。アクチュエータの単体テストが完了し、現在62cm鏡に9箇所つけてシステムテストを行っている。4月11日からシャックハルトマンテスト等を組み込んで最終テストを行う。メッキは京大理で行う。総会時までにシステムとしての評価を一応行う。ランドサーベイのために現在成相氏がハワイに行っている。

2. 選挙結果報告

事務局より別掲の通り報告され了承された。

3. 光天連シンポジウムのまとめ

光天連シンポ及びU. C. ミーティングについての報告(シンポ集録及び本会報参照)が行われ、専門委員の選び方に関して体制WG関氏の報告についてと、岡山観測プログラムの編成についての報告と論議が行われた。これらに関しては次回の運営委員会とUCでまとめを行い総会で報告し、岡村氏がまとめて運営委員会の提案として会報に載せることにした。アンケートについては平田、兼古両氏が担当するが京大の院生が現在計画しているのでその様子を見て判断することになった。

4. 宇電懇・光天連運営委員懇談会のまとめ

小暮委員長の報告(本会報)にあるように各種委員会委員の選出法について双方で重点の置き方などに多少の食い違いはあったが要は分野別に推薦・選出するという点で問題はない事が確認された。

5. JNLTシンポジウムの準備状況

磯部氏より資金の集まり状況とサーキュラーについて報告があり検討をおこなった。

6. 次期体制について

次期事務局は定金氏(事務局長)、長田氏(会計)が引き受けて下さるということで了承された。

7. 会計報告

事務局より会計中間報告が行われた。

8. 総会準備

総会は学会春期年会の初日の講演終了後に行う予定である旨定金氏より報告された。

9. その他

新旧合同運営委員会は4月15日1時30分より東大天文学教室で行う予定。

X. 岡山プログラム編成問題について

1988年3月10日

光学天文連絡会運営委員会

岡山プログラム編成のあり方については、いわゆるレフェリー制を導入すべきか、あるいは現状に近い方式を継続すべきかについて、これまで岡山ユーザーズコミッティを中心に議論を積み重ねて来た。とくに本年1月の光天連シンポジウムにおいてはこの問題について白熱した議論があり、それによって問題の所在が明確になって来た。

運営委員会はこれ迄の議論を総括し、また、国立天文台(仮称)の発足を控えて早急に事態を取束すべき時点にあることを認識し、本日の委員会において次の見解をまとめた。この見解について来る5月の光天連総会で議論し、賛成が得られれば7月1日に発足する国立天文台(仮称)への申し入れを行なう方針である。会員諸氏の検討と総会における討論の進展を期待する。

見 解

1. 岡山のプログラム編成を改善するために何らかの措置をとる必要がある。
2. 岡山の現行プログラムではユニット当たりの観測日数が3日前後となっている。これを5-6日の水準に引き上げることを目標にプログラム調整を行なう方策を考える。
3. 岡山188cm鏡の性格上、単純にサイエンスメリットのみを判定基準とする調整方法は望ましくない。
4. プログラム調整はサイエンスメリット、観測装置および観測方法のフィジビリティ、観測データの処理状況などを考慮して総合的に行なう。
5. プログラムの調整および編成については国立天文台(仮称)にプログラム委員会(仮称)を設置し、そこが責任を持って当たる。
6. 具体的方法については更に検討を深める。

XI. 国立天文台(仮称)発足準備委員会メモ

1988年3月12日、上記会合が東京天文台で開かれた。これは仮運営協議員会に当たるものとして招集されたものであるが、台外委員10名にたいして台内委員が13名になっているなど性格がはっきりしないところがあった。委員会の名称も本日の会議の最後になって決まった。

1. 報告

古在台長から文部省内に「国立天文台(仮称)設置準備協力者会」が設置され、この3月18日に第1回会合が開かれることになった旨報告された。委員は16名である。この会議で国立天文台の主要人事が決定される。

ついて本日の委員会の任務として上記協力者会議に推薦する主要人事の候補者の選定にあることが説明された

2. 議事

(1) 国立天文台(仮称)の台長および企画調整主幹の候補者について、

台長については1月16日の調査委員会で検討した選出法にしたがって行なうことになり、台外8名(2名欠席)と台内11名による投票の結果、古在氏を候補者とする事になった。

企画調整主幹については台長を補佐する副台長格という面があり、水沢、空電研との合併という面や、大型計画との関連なども考慮する必要があるので、候補者の選定は古在、細山両氏に一任した。

(2) 国立天文台(仮称)教育人事について

古在台長から教育人事の現状と見込みについて説明があり、天文台および緯度観測所から資料が配布された。細山氏から緯度観測所の事情説明があり、とくに、天文台と緯度観測所との選考基準の相違点や両者のマッチングの問題などが議論された。具体的な人事の検討は4-5月に開かれる次の会合で行なわれることになった。

尚、台外委員は次の10名である。

竹内 峯(東北大)、 田原博人(宇都宮大)、 中沢 清(東工大)、 奥田治之(宇宙研)
杉本 大一郎(東大教養)、 内田 豊(東大理)、 堀 源一郎(東大理)
松本敏雄(名古屋大)、 小暮智一(京大理)、 中川一郎(京大理)

(小暮記)

X II. 東京天文台内 望遠鏡WG 会合記録 (9)

- 第141回 87年3月11日 仕様書検討, ハワイ観測所のイメージ, 鏡面の質点系モデルの力学的性質, WGの持ち方
- 第142回 3月18日 技術検討会報告, 国際協力, ハワイ観測所のイメージ
- 第143回 3月25日 サイトテスト計画, 望遠鏡運搬と現地組立手順
- 第144回 4月1日 SERC望遠鏡パネルとの懇談会準備, 変形ハルトマン法による鏡面形状解析シミュレーション
- 第145回 4月13日 ハワイ報告, SERCとの懇談会準備, 仕様書メモ
- 第146回 4月22日 エジプト報告, 事務作業会報告, Dr. Brownとの議論, STARLINKソフトウェアの互換性実験
- 第147回 5月6日 仕様書中間報告, ESO報告, Dr. Brownからのコメント
- 第148回 5月21日 事務作業会報告, サイトテスト準備状況, 計算機システム, 観測装置
- 第149回 6月3日 アクチュエータ第1回性能評価, 仕様書, ハワイ基地建物
- 第150回 6月10日 サイトテスト, ハワイ基地建物, 国内本部建物, 実験用鏡の支持方法
- 第151回 6月16日 サイトテスト速報, CTIOの現状
- 第152回 6月22日 CTIOの機器開発の現状, サイトテスト, 仕様書, 事務作業会報告
- 第153回 7月1日 TRON紹介, ドーム風洞実験, 仕様書(ドーム)
- 第154回 7月8日 力による鏡面制御, 仕様書
- 第155回 7月15日 技術検討会準備, ESOメッセンジャ紹介, non-scanningタイプFTS, 国内本部建物
- 第156回 7月22日 サイトテスト報告, 技術検討会報告, コーニングとの検討会報告, 仕様書粗案, JNLT関係第1期完成時のイメージ
- 第157回 8月19日 ハワイ報告
- 第158回 9月9日 仕様書, 能動制御実験, 技術検討会準備, K e c k技術レポート, 観測器WS準備, 太陽系天体の視運動
- 第159回 9月16日 サイトテスト全天カメラ速報, シャックハルトマンスクリーン結像テスト, 観測器WS準備

原則として水曜日 15:00 - 17:00

前回の報告は会報44号p9にある.

X III. 1988年度光天連運営委員選挙結果

1. 小暮智一	65 票	有権者数	245
2. 小平桂一	62	投票者総数	118
3. 岡村定矩	55	有効票	1092
4. 舞原俊憲	47	白票	85
5. 磯部誘三	47	無効票	3
6. 家正則	43		
7. 兼古昇	39		
8. 若松謙一	38		
9. 田村真一	38		
10. 平田龍幸	35		
11. 渡部潤一	32		
12. 佐藤修二	29		
13. 田中 済	28		
14. 佐々木敏由紀	28		
15. 関 宗蔵	27		
次点			
前原英夫	25		
安藤裕康	24		
西村史朗	24		
山下泰正	19		
谷口義明	19		

X VI. お知らせ

(1) 行事予定

- ・ 新旧合同運営委員会予定: 4月15日 議題: 総会準備と次期体制
- ・ 光天連総会: 5月17日 日本天文学会春期年会初日講演終了後
- ・ JNLT国際シンポジウムの開催のための準備が進められています。次ページに示すような案内状を配り初めています。関心のある方はご連絡ください。尚最終ページは切り離して御利用下さい。

(2) 会員の移動

新入会員 金光 理 福岡教育大学地学教室

移動 河野嗣男 東京都立科学技術大学
機械システム工学科

住所変更 西田賢三

(3) 会員名簿の訂正

P4 浜部 勝 浜辺 → 浜部

P7 坂井義人
海野和二郎

P8 長谷川一郎
田辺健茲

大変ご迷惑をおかけました。お詫びいたします。

XVII. JNL T 国際シンポジウムについて

既報の通りシンポジウムの開催のための準備が進められています。次に示すような案内状を配り初めています。関心のある方はご連絡下さい。

First Circular

Please post

Symposium on

JNL T and Related Engineering Developments

Tokyo, 29 Nov. - 2 Dec. 1988 (4 days)

A symposium on the JNL T (Japanese National Large Telescope) and Related Engineering Developments will be held in Tokyo on 29 Nov. - 2 Dec. 1988.

The aim of the symposium is to exchange ideas among people who are deeply involved in the construction and the operation of existing and future large telescopes. The stress is given on problems of single dish large telescopes such as a 7.5m telescope, JNL T. We would also appreciate critical discussion of our JNL T project by participants specialized in various fields of telescope technology and astronomy.

Most of the conference will be devoted to invited talks and discussions following them. A limited number of contributed papers on oral presentation are scheduled in addition to poster papers.

The summary of program under consideration is given in the attached sheet. The proceedings will be published soon after the symposium.

Expected contributors will be (as of Feb. 1988):

H. Ando (TAO), R. Angel (Steward), L. Barr (NOAO), R.C. Cannon (AAT), J. Graham (Carnegie Inst.), D. Hall (CFA), N. Kaifu (TAO), A. Labeyrie (CERGA), B. Mack (Greenwich), T. Maihara (U. Kyoto), K. Nariai (TAO), J. Nelson (UC Berkeley), T. Nishimura (Steward), M. Oda (ISAS), W.A. Siegmund (U. Washington), R.N. Wilson (ESO), Y. Yamashita (TAO)

The Organizing Committee consists of

T. Kogure (Chairman, U. Kyoto), K. Kodaira (TAO), S. Isobe (TAO), M. Iye (TAO), S. Okamura (TAO), W. Tanaka (U. Tokyo), K. Takakubo (U. Tohoku), T. Tsuji (TAO), S. Nishimura (TAO), S. Sato (TAO), R. Hirata (U. Kyoto).

Contact address: Syuzo Isobe, Tokyo Astronomical Observatory,
2-21-1, Osawa, Mitaka, Tokyo 181, Japan.
Telex 2822307 TAOMTK J
Tel. 422-32-5111.
Fax. 422-31-5808.

Symposium on
JNL T and Related Engineering Developments
Tokyo, 29 Nov. - 2 Dec. 1988 (4 days)

Summary of Preliminary Program

Part 1: Presentation of the Large Telescope Projects (0.5 day)

- a. Outline and the Present Status of the JNL T Project
- b. Brief Summaries of the Present Status of other Projects (Keck, VLT, NNTT, Columbus, etc.)

Part 2: Problems and Breakthroughs (2 days)

- a. Mechanical Structure of Telescope
- b. Primary Mirror: Manufacturing, Figuring, Testing, and Aluminizing
- c. Active Support System
- d. Wind Loading
- e. Seeing in Terms of Dome Structure
- f. Site Evaluation and Development
- g. Adaptive Optics

Part 3: Instrumentation (1 day)

- a. Instrument Plan for JNL T
- b. Instrument Plans for Very Large Telescopes
- c. Experiences of Instrumentation at Existing Large Telescopes
- d. Remote Observing and Data Communication Networks
- e. Detector Developments
- f. Interferometry

Part 4: Summary and Discussion (0.5 day)

Special Talks on Some Specific Technology and Astronomy will be included in each part.